



東京都知事杯

# 椿まつり フォトコンクール



前年度入賞作品例

応募期間

2025.2.2 ▶ 2025.3.31

企画主催：一般社団法人大島観光協会

審査員：北山輝泰（星景写真家兼ビデオグラファー）

後援：東京都、東京都大島町、東海汽船株式会社、東京新聞、全東京写真連盟



たくさんのご応募ありがとうございました。  
総応募数252作品の中から厳正なる審査の結果、  
最優秀賞1点・優秀賞2点・入選10点が  
選ばれました。おめでとうございます。

## 最優秀賞（1作品）

「おててよりも大きな椿」  
松本千尋さま

<選評>

ひと目見て、あたたかい気持ちになる作品です。ふわりと咲いた大きな椿に、小さな手がそっと触れようとしている瞬間。そのサイズ感の対比がとても愛らしくて、思わず笑顔になりました。

さらに、椿とお子様の手にだけ差し込むやわらかな光が、まるで「ここが主役ですよ」と語りかけるような自然の演出になっており見事です。背景の優しいボケ味も、シーン全体をふんわりと包み込んでいて、作品の雰囲気を引き立てています。

日常の中の一瞬の出会いを、丁寧に、やさしいまなざしで切り取った素敵な一枚です。

## 優秀賞 (2作品)



↑「満開の椿と笑顔」矢作麻依さま

パッと目に飛び込んでくるのは、満開の椿に負けないくらいまぶしい、ふたりの笑顔。カラフルな衣装に身を包んだ子どもたちの姿は、まるでこの椿園の主役のようです。

やわらかな自然光がふんわりと差し込んで、全体を優しく包み込んでくれているのも印象的でした。木漏れ日と明るい緑、そして赤く咲き誇る椿の花々が、春の訪れと楽しいひとときを感じさせてくれます。

写真からにじみ出るのは、撮る人と写る人のあたたかな関係、そしてその場にあった空気の心地よさ。見る人の気持ちも明るくしてくれる、素敵な一枚です。



↑「夕日を浴びて」加藤 諒さま

夕陽に包まれながら静かに佇む大型船と、それを迎える港の人々。その光景からは、ただの交通手段ではない「島と本土をつなぐ日常の風景」がしっかりと伝わってきます。

夕陽の光が船体や港にいる人々に長い影を落とし、空気のあたたかさや一日の終わりの雰囲気までもが写し込まれているようです。光と影の対比が美しく、時間の存在を感じさせてくれます。

「働く人々の姿」と「旅の船」が共存する、現実の一瞬を丁寧に捉えた作品です。

## 入選 (10作品)



←「椿と桜の競演」  
南澄恵さま

白く咲き誇る桜の中に、赤く艶やかな椿が寄り添うように咲いています。春を代表する二つの花の色彩が、美しいバランスで画面に収められているながら、桜のやわらかさと椿の力強さが対照的で季節の重なりを静かに感じさせてくれます。



←「切通しに椿傘」  
南秀人さま

苔むした岩壁と絡みつく木の根がつくり出す、神秘的な切通しの風景。その中を、色とりどりの傘を差した人たちがそっと歩いている様子が、まるで物語のワンシーンのようです。薄暗い空間に椿の赤と傘の色が浮かび上がり、自然と人の営みが静かに交わる一枚です。



← 「椿も笑顔も満開！」  
榊原汐里さま

鮮やかな椿が浮かぶ水鉢を囲んで、満面の笑みを見せてくれるふたり。ピンクのふわふわの服や表情の柔らかさが、花のかわいらしさとよくマッチしています。見る人まで笑顔になりそうな、春らしい明るさと楽しさに満ちた作品です。



← 「隠れミッキー」  
葛山万希子さま

赤い椿の花がちょうど耳のように配置されて、まるでキャラクターになったかのような楽しい一枚。被写体の笑顔も自然体で、撮る人との信頼関係がにじみ出ています。遊び心あふれる構図が印象的で、椿園でのほっこりしたひとときを感じさせてくれます。



← 「線香花火夕陽」  
山下福孔さま  
(野田浜)

水平線に沈みゆく太陽が、野田浜のバディーズ・ベルにぴったりと重なる時間にとらえられた作品。まるで夕日を封じ込めたかのような構図がユニークで、シルエットのバランスも絶妙です。椰子の木も画面を引き締め、旅先ならではの印象的な風景に仕上がっています。



← 「軽快ジェット船」  
クニヒロタエコさま

青く広がる海の上を、白い航跡を残しながら軽やかに進むジェット船。その先に現れた富士山は、雲の上にふわりと浮かんでいるようで、まるで船が空へ向かって進んでいくような、不思議な広がりを感じさせます。移動のひとつときにある高揚感を伝えてくれる、印象的な一枚です。



← 「神秘の三原山」  
辻義彦さま

青空に浮かぶ大きな雲が、山肌に穏やかな影を落とし、三原山の表情に奥行きを与えています。画面の多くを占める空が、広大なスケール感を生み出し、自然の力強さと静けさが同時に感じられる風景です。手前の草木も程よくアクセントとなり、視線を山頂へと導いてくれます。



← 「輝く三原山」  
西躰舞さま

夜空いっぱいに広がる星たちが、三原山の上にまるで宝石のようにちりばめられています。静かな闇の中に浮かぶ稜線が幻想的で、まさに「星降る島」の名にふさわしい光景です。案内板を入れた構図も工夫されていて、「この場所で見たんだ」というリアルな感動が伝わってきます。



← 「夕日に響く鐘の音」  
滯さま

野田浜のバディーズ・ベルと夕陽、そして子供たちのシルエット。光の道と、鐘を鳴らす子どもたちの姿がそのシンプルな構図の中に、温かな時間がぎゅっと詰まっています。海に伸びる重なり、一日の終わりにぴったりの情景をやさしく切り取った一枚です。



← 「元町花火を見下ろして」  
小原隆哉さま

夜の街にきらめく灯りの上に、まるで空から降り注ぐように大輪の花火が咲き誇ります。花火の立体感と光の軌跡が見事に捉えられ、遠くから見下ろすことで、町全体が祝福されているような迫力ある構図に。夏の夜の高揚感がしっかりと伝わる作品です。